2021年7月3日付愛媛新聞

# 元気に笑顔に心込め

四国中央市の三島、川之江両高校の書道部員が、新型コロナウイルスと向き合う医療従事者へメッセージをしたためた。太く大胆な文字で「輝かしい日々」「感謝」と揮毫（きごう）。心からの敬意がにじみ出るような仕上がりで、部員たちは「これを見て元気に、笑顔になってほしい」と願っている。作品は今夏、大阪府・福岡県・沖縄県の３病院に飾られる。

## 四国中央　三島・川之江高書道部

## 医療従事者に「感謝」揮毫

揮毫は宇和島徳洲会病院（宇和島市）が依頼。新型コロナ患者を受け入れている徳洲会グループの病院を励ましそうと企画した。愛媛ならではのメッセージを届けたいと思案していたところ、書道パフォーマンス甲子園の実行委員会事務局から両校の紹介を受けた。

三島高書道部は5月26日に2、3年生部員8人が集まり、縦1・2㍍、横2・0㍍と縦2・4㍍、横3・5㍍の大小2枚に1人ずつ「どんな時も傍にいてくれる」「ありがとう」などと書いた。

3年の高橋七海部長(17)は「医師や看護師は私たちを救ってくれる存在。患者や市民の感謝の気持ちを伝えたかった」と話した。

川之江高書道部は6月30日に部員9人で書いた。「手紙」と「幸せ」をイメージしながら縦2・4㍍、横4・0㍍の紙に大きく「感謝」の文字。続けて「当たり前だった日々が訪れることを願い　心から応援しています」などと記した。

メッセージ文の取りまとめ役の一人、2年吉田好花さん(16)は「毎日大変な状況で働く医療従事者への感謝と、コロナの早期収束への願いを表現した」と話した。

三島高の2枚は徳洲会病院の岸和田（大阪府岸和田市）と福岡（福岡県春日市）に、川之江高の1枚は中部（沖縄県北中城村）に送られ、ロビーなどに掲示される予定。

宇和島徳洲会病院地域連携室の木ノ脇富男副室長(62)は「コロナ禍で医療従事者は非常に厳しい状況が続いてきた。私たちの最後のよりどころは『ありがとう』の一言。若い人たちのメッセージで勇気をもらえる」と話していた。

（菅亮輔）

上 三島高書道部員が「どんな時も傍にいてくれる」「ありがとう」などと揮毫したメッセージ
下 川之江高書道部員が「感謝」などと揮毫したメッセージ

掲載許可番号：d20210706-07